

城山（西）道僊

孤軍奮闘 困を破つて還る

一百の里程 壘壁の間

吾が剣は既に摧れ 吾が馬は斃る

秋風骨を埋む 故郷の山

孤軍奮闘破圍還 一百里程壘壁間  
吾劍既摧吾馬斃 秋風埋骨故郷山

解説 西郷隆盛が鹿兒島に帰り、城山で自刃したことを詠じたもの。

語釈 ※孤軍 孤立した軍隊。 ※破圍還 田原坂の敗戦から官軍の包圍陣を突破し、三田井を経て鹿兒島にはいったことをさす。 ※一百里程 およそ百里。 ※壘壁 諸方に設けられたとりで。 ※吾劍既摧 激戦で剣が幾段にも折れたことを示す。 ※斃 はたおれて死ぬ。 ※秋風埋骨 別府晋介の介錯で自刃したのは秋風の吹くころであった。 ※故郷山 城山のこと。

通釈 孤立して援兵もない軍勢で、諸方の敵を破り包圍を脱して、やっと故郷の鹿兒島に戻ってくる事ができたが、それは実に百里もあると感じられる距離であり、その間は敵の砦で埋まっていた。わが剣はすでに折れ馬も斃れて死んだ。もはやこれまでである。今は吹きわたる秋風の中で懐かしの故郷の城山にこの骨を埋めるばかりである。